

フェミニズムの新しい潮流

——「第4波フェミニズム」

The new tide current of Feminism - “Fourth-wave Feminism”

荒木 生

キーワード：フェミニズム，第4波フェミニズム，ジェンダー・セクシュアリティ，クィア・スタディーズ，女性史

目次

はじめに

I フェミニズムの研究

1 フェミニズムとは

2 第1波フェミニズム

3 第2波フェミニズム

4 第3波フェミニズム

II 「第4波フェミニズム」

1 概要

2 展開

(1) アメリカ

(2) 日本

III 「インターセクショナル・フェミニズム」

IV ジェンダー・セクシュアリティ研究への影響

おわりに

はじめに

近年、これまでのフェミニズムとは異なる新しいフェミニズムの潮流がアメリカを中心に目立ち始めている。本稿では、その新しいフェミニズムの動向に注目し、その意義や目的を、「性」をめぐる研究の観点から予備的に考察する。

筆者は、これまで「同性愛」や「同性間の親密な関係」が歴史的にどのように変化してきたのか、またその変化がどのように言説化されてきたのかということに、特に関心を持って研究を進めてきた。そうした「性」をめぐる研究を行う上で、セクシュアリティはもちろん、ジェンダーに関しても当然関心を払わねばならない。したがって、ジェンダーの問題にもっとも精力を注ぐフェミニズムの動向や潮流にも関心を向けざるを得ない。そうした研究の一環として、2017年に発刊されたスーザン・ストライカー (Susan Stryker) 著『Transgender History, Second edition』に目を通して見た。そうしたところ、欧米のジェンダー・セクシュアリティ研究やフェミニズムの研究に、新たな潮流が顕著となりつつあることがわかった。

本稿では、その新しい潮流をフェミニズムの研究史の中に位置づけて紹介し、そうした新たなフェミニズムがアメリカや日本で具体的にどのような実践となって表出しつつあるかを検討する。合わせて、この新しい潮流に対応したジェンダー・セクシュアリティ研究について、予備的に考察したい。

以下、第I章では、フェミニズムの展開を第1波から第3波まで順に概観し、それぞれのフェミニズムの特徴と代表的な取り組みについてみていく。第II章では前述した新しいフェミニズムの概要と実践を紹介し、第III章ではその考察を試みる。第IV章では、この新しいフェミニズムの潮流がジェンダー・セクシュアリティ研究にどのような影響を及ぼしているかについて、予備的な考察を行う。

I フェミニズムの研究

1 フェミニズムとは

フェミニスト政治学者のベル・フックス (1952-) は、フェミニズムを「性差別をなくし、性差別的な搾取や抑圧をなくそうとする思想や運動のことだ」と定義している [フックス 2003: 14]。この定義の重要な点は、敵は男性そのものではなく、性差別だと明示したことである。この定義では、こうした反性差別の意識を持つ者、つまりフェミニストであるには女性か男性かは関係ないと示しており、行動や発言に表れるあらゆる性差別から、社会や制度に根付いた性差別まで、幅広い事象を問題として扱うことができる。

一般的に、フェミニズムの運動はこれまで、第1波から第3波まで展開されてきたといわれている。ここではまず、『サフラジェット 英国女性参政権運動の肖像とシルビア・パンクハースト』 [中村 2017] や『日本のフェミニズム since 1886 性の戦い編』 [北原 2017]、『Introducing Postfeminism』 [Phoca 1999] を参照しつつ、今までの三つの潮流とその特徴や目的について確認していきたい。

2 第1波フェミニズム

第1波フェミニズムは、一般的に19世紀末から20世紀初頭に始まったとされる。この運動の一番の目的は、女性の参政権と政治的平等の獲得であった。イギリスでは、その権利獲得を目指した女性集団「サフラジェット」が登場し、これを契機に各国でも女性参政権の獲得を成し遂げる大規模な活動が起こった。代表的な人物には、サフラジェットを組織し、その活動で何度も投獄された女性活動家エメリン・パンクハースト (1858-1929) がいる。第1波フェミニズムにおけるサフラジェット以外の活動には、女性の衣服として当然視されていたがために女性の日常生活を困難にしていたクリノリン (スカートを広げるための骨組み) とコルセットの廃止・改良運動 (ドレス・リフォーム) や、女子と女性も学校や公の場で教育を受けることができるよう

教育の機会均等の確保に尽力したことなどが挙げられる。

参政権の獲得のみでは女性の地位向上と男女平等は実現には至らなかった。しかし、これを足掛かりに様々なレベルでフェミニズムの議論や活動が行われていくこととなる。

3 第2波フェミニズム

第2波フェミニズムは、1960年代に展開されたとされ、「ウイメンズ・リブ」(女性解放運動)ともいわれる。第2波では、雇用と賃金の平等、性の解放、レズビアニズム、生殖の自由、家事という女性の無償労働の認知、メディアによる女性の表象、自衛権、レイプと家庭内暴力の防止など、より幅広い問題の解決を目的とした活動を展開するようになった。また、性犯罪に対する反抗が大きくなったのもこの時期であり、「Take Back The Night March」(夜を取り戻せ運動)という、女性が男性ほど安全に夜を過ごせないことへの抗議として、性暴力に反対し安全な夜の行動を要求する大規模なデモも行われた。有名な人物としては、一部の第2波フェミニストにバイブル視された本『性の政治学』(1970)を発表したケイト・ミレット(1934-2017)がいる。

男女雇用機会均等法など制度としての男女平等、ジェンダー平等を成し遂げたが、性差別や性犯罪の解決という大きな問題は現在にも残っている。また、第2波フェミニズムは大きな反発もありバックラッシュも起きている。そしてこの頃から、性別と「らしさ」を結びつけず「自分らしく」あればいいというヒューマニズムの方向へ向かうフェミニズムも現れはじめた。

4 第3波フェミニズム

1990年代に始まった女性性をより肯定的に捉える運動や、それまでのフェミニズムの目標はすでに達成されたと前提する「ポスト・フェミニズム」が起こった。これらを第2波のバックラッシュとする見方もあるが、ここでは第3波フェミニズムとして評価したい。第3波フェミニズムになると女性がさらに性の主体性を主張するようになる。女性が主体的にセックスを楽しむ

ためのフェミニスト・ポルノを女性団体が主導して製作するようになるのもこの頃からである [守 2010 : 68-86]。また、セックスワーカーをセックスワークから「救う」のではなく、セックスワーカーをサポートし、肯定して力づける方向性が誕生したのもこの頃である。そして、ボディ・シェイミング（見た目をバカにすること）への対抗といった個人をエンパワメントするマクロな動きも活発になる。ソーシャルメディアを通してオンラインでの活動を行うことも盛んになり、インターナショナルな視点を持ってフェミニズム活動を行うことがより重要視されるようになった。こうした第3波フェミニズムの、国境を越えて女性たちが連帯しようという活動を「グローバル・フェミニズム」として名づける人々もいる。第3波フェミニスト主導の有名な活動として、女性がどのような身体や服装でどのように性を楽しんでも良いのだ、と性の主体性を打ち出し、参加女性が裸から厚着まで思い思いの格好で行進するデモ「Slat Walk」（スラット・ウォーク、あばずれ行進）がある。こうした第1波、第2波、第3波というフェミニズムの歴史は欧米だけでなく世界中で発展・展開してきた。

では、第3波までのこれまでのフェミニズムとはまた異なる新たな動向とはいったい何なのかを、以下でみていきたい。

II 「第4波フェミニズム」

1 概要

2010年代に入り、フェミニズムに新たな潮流が誕生しつつある。それは、第3波時の人種や民族や国籍の壁を越えた女性たちの政治的連帯よりも、さらに広い分野でのマイノリティ／社会的弱者間（時としてマジョリティ／社会的強者までも含む）の連帯を目的とした動きである。そしてこの動きは、フェミニズムの新たな潮流と認識され始めている。スーザン・ストライカーは、この新しいフェミニズムを「第4波フェミニズム」とみなし、「2008年の金融危機の余波の中で形作られた」[Stryker 2017 : 4] と分析している。本稿では、この新しい潮流を予備的に考察する。

2008年に起きた金融危機、サブプライムローン暴落とそれに次いで起こったリーマンショックを経て、人口わずか1%の富裕層が富を独占していることが浮き彫りになった。そして、それへの抗議として、ウォール街を発端にして各地で大規模かつ長期の「オキュパイ運動」(富の独占反対運動)が行われた¹⁾。また、同時期、無実の黒人男性が偏見と先入観により警官に射殺される事件が相次いでいることが問題視され、こちらも「ブラック・ライブズ・マター運動」(Black Lives Matter、黒人の命も大切に運動)²⁾という大規模で長期的な抗議運動が展開されている。注目すべきは、このどちらの運動にも多くのフェミニストを中心とする女性人権活動家や団体が参加していることである。その他にも、フェミニズムは環境的公正を求める政治運動など、「不公平を廃し、公平さが万人の益となる」という考え方に基づく多様な反差別・反搾取の活動が結びついていった。

UN Women (国連ウイメン協会)³⁾がエマ・ワトソン(1990-)を大使として2014年から提唱している「He For She」(彼も彼女のために)⁴⁾も、こうした流れを汲んだものであると考えられる。「He For She」は女性の解放や男性のマチズモの苦しみからの解放を含む性差別の根絶とジェンダー平等の実現、さらに貧困や教育格差、健康、アイデンティティを取り巻く問題など、世界のあらゆる差別や搾取の人権問題に取り込むことを目的とし、フェミニズムへの男性の積極的な参加を呼びかけたことで大きな話題となり、各国で政治家たちにジェンダー平等の声明を出させるなどの影響力も発揮した。

第4波フェミニズムは、アメリカのみならず、日本の運動にも拡大していると考えられる。その拡大の様相を簡単に紹介しておきたい。

2 展開

(1) アメリカ

近年さらに活発になっているフェミニズムの新しい潮流とみられる運動を追っていく。

アメリカ発祥のプライドパレードでは、セクシュアル・マイノリティへのフォーカスに加えて反性差別の観点からフェミニズムとも早くから結びつい

ている。プライドパレードには、ダイクマーチというレズビアンやフェミニスト、フェミニズムを扱う団体が集まり女性だけで行う行進が存在している。2016年からは、ブラック・ライヴズ・マター活動団体のフロート（台車）が加わり、アメリカ国内外でもプライドパレードという反性差別の運動に、反人種差別も含む広がりが見られるようになってきている [Mann 2018]。

2017年には、史上初の女性ヒーロー（スーパーヒロイン）映画『ワンダーウーマン』がハリウッドで製作、公開され、『ワンダーウーマン』はキャラクターそして主演女優ともに一躍フェミニズム・アイコンとなった。しかし、主演女優ガル・ガドットが元イスラエル軍人であり、かつ自身のSNS上でイスラエルの軍事侵攻への賛美を繰り返していることへの非難が起きた。レバノンでは、主演女優がシオニストであることを理由に『ワンダーウーマン』の上映が禁止されるに至った [Buckley 2017]。ガドットが女性の地位向上の支持や反性差別の姿勢を表明しているとはいえ、パレスチナなど特定地域の人々への攻撃を支持するシオニストでもある。そのような人物をフェミニズム・アイコンとして扱うことの批判がフェミニスト間でも起き、議論を呼んだ。

同じく2017年、10月5日にハリウッドの有名映画プロデューサーであるハーヴェイ・ワインスタインが多くの女優や女性スタッフに性的暴行を働いていたという告発記事がNew York Timesに掲載された [Ketor and Twohey 2017]。同月10日には複数の女優たちが連名でワインスタインの性犯罪を告発した。これに始まり、次々「Me Too（私も）」と声が上がリ、様々な業界で性犯罪告発と加害者の業界追放が行われた。告発者には女性が多いものの男性もあり、加害者は男性が多いが女性の名もある。2018年1月1日には、この一連の流れを踏まえて、性別の垣根を超えた反性差別の連帯として、「Time's Up（もう終わりにしよう）」という全てのハラスメントや搾取の撲滅を訴えるスローガンが誕生した⁵⁾。

また、2018年ドイツのサッカー選手メスト・エジル引退にともない、「勝てばドイツ人、負ければ移民」という人種差別が問題視され、先行したMe Tooに倣った「Me Two（私にも二つのルーツ）」というハッシュタグがSNS

で流行した [Daouphars 2018]。次いで9月9日、女子テニスのグランドスラムにおいて審判による人種差別と性差別があるとの批判がスポーツ界で起き [James 2018]、スポーツとフェミニズム的思想との繋がりがみられた。

同年、国際チャリティ団体 ONE は、「貧困は性差別に根付いている」として世界の指導者に性不平等の是正を求める運動を開始した。ONE は、芸能・スポーツ・政治など様々な分野の著名人に公開書簡への署名を求め、各国の政治指導者に具体的な対応をとるよう警告した⁶⁾。この運動は性差別と貧困問題、発展途上国の抱える問題を結びつけたものであり、より広い連帯という第4波フェミニズムの流れをくむ動きであると考えられる。

(2) 日本

日本においては、第4波フェミニズムが意識されている様子は観測できない。しかし、こうした動きは世界と連動して起きている。

上野千鶴子が2017年2月11日に中日新聞に寄稿した「平等に貧しくなろう」という論考 [上野 2017] への批判とその対応が、第4波フェミニズムの実践と呼ぶことができる一例であろう。Women's Action Network は、上野の「移民政策について言うと、私は客観的に無理、主観的にはやめた方がいいと思っています」「日本は労働開国にかじを切ろうとしたさなかに世界的な排外主義の波にぶつかってしまった。大量の移民の受け入れなど不可能です」という記事中の主張は排外主義であるとし、移住連・貧困対策プロジェクトからの公開質問状を公表した⁷⁾。フェミニズムと移民問題が接点を持った例である⁸⁾。

また、大阪、京都両府などに住む在日コリアンやLGBTらが主催し2016年から始まった「ダイバーシティパレード」も、第4波フェミニズムといえるだろう。「誰でもおったらええやん」をスローガンにした2018年4月1日の「ダイバーシティパレード2018」⁹⁾では、第1フロート「WE ARE HERE」、第2フロート「労働梯団 —Worker's Formation—」、第3フロート「EXCITED WOMEN'S」の三つに分かれ、それぞれメインに訴えたいことを叫ぶというものである。このパレードではフェミニズムとセクシュアル・

マイノリティの直面する問題、労働、人種・移民問題がクロスオーバーしていることが分かる。

以上の点から、諸外国、そして日本においても、フェミニズムの「女性」を越えたより広い分野で連帯が試みられていると考えていいだろう。

Ⅲ 「インターセクショナル・フェミニズム」

これまでの第1波フェミニズムから第3波フェミニズムの思想と活動を振り返り、現在起きている動きを追ってきた。これまでのフェミニズムとはまた異なる新しい潮流が確かに起こっているようである。これをフェミニズムではないとする者¹⁰⁾もいるが、ここではこれを「第4波フェミニズム」というフェミニズムの新たな潮流として肯定的に評価したい。

また、この第4波フェミニズムの「女性」を越えた連帯という理念は、「インターセクショナル・フェミニズム」と呼ばれ始めている。

インターセクショナル・フェミニズムとは、出生時に「女性」と割り当てられた者だけの連帯ではない。これは人種や階級、国籍、宗教、障害、セクシュアリティ、市民権の有無、容貌、そしてトランスまたは性別違和の感覚やアイデンティティを持っているかどうかを含めて、軽んじられるマイノリティ（そして時には特権化されるマジョリティまでも）が連帯し、それぞれの分野を越えて、性差別を含む全ての差別と搾取を生み出す社会の構造を変革しようとする動きである [Stryker 2017: 4-5]。これを踏まえて、本稿では筆者はインターセクショナル・フェミニズムを「分野交差的フェミニズム」と訳すこととする。

こうした、インターセクショナル・フェミニズムを理念とする第4波フェミニズムの動きは欧米だけにとどまらず、世界各地でこうした動きが連動している。日本も例外ではなく、日本においてもこの第4波フェミニズムと呼べる活動が起きていることが確認できた¹¹⁾。

また、インターセクショナル・フェミニズムの影響は、学問の分野においてもみられる。

IV ジェンダー・セクシュアリティ研究への影響

筆者は、近年のジェンダー・セクシュアリティ研究においてもインターセクショナル・フェミニズムの影響があると考えている。性的欲求を持たない、または必要としない人を指す「アセクシュアル」という言葉 [Helm 2015 : 32] や、性的接触はなく親友や恋人とはまた異なるとも親密な関係を指す「ズッキーニ」という言葉 [Michelson 2015] などが生まれ、セクシュアリティは「性のあり方」全般を含むより広義な単語となってきたといえるだろう。

また、ジェンダー・セクシュアリティが文化や社会を構成する要素の一つである以上、ジェンダー・セクシュアリティは文化や社会にあるあらゆる差別や搾取の問題と密接に結びついている、という認識も深まってきている。インターセクショナル・フェミニズムの持つ「分野交差的」な視点が、現在、様々な分野で必要とされているようである。

おわりに

本稿では、2010年代に入って顕著となりつつある新しいフェミニズムの動向に注目し、その社会的意義や目的を予備的に考察することを目的とした。

第I章では、まず、これまでのフェミニズムの動向と目的を第1波から第3波までを順に確認した。第II章では、近年、アメリカを中心にフェミニズムに近年新たな潮流が生まれていることについて述べ、それは従来のフェミニズムとは異なる第4波フェミニズムと位置付け得ることを明らかにした。第III章では、第4波フェミニズムが、性差別を含んだあらゆる差別や搾取の撲滅を、分野や領域（セクション）を超えて目指す理念であることを確認した。それゆえ、第4波フェミニズムは、インターセクショナル・フェミニズム（分野交差的フェミニズム）とも呼ばれていることを紹介した。第IV章では、インターセクショナル・フェミニズムがジェンダー・セクシュアリティ

研究にも影響を及ぼしつつあり、研究対象や研究方向の広がりがみられることを明らかにした。

現在進行形でおきている、「性」をめぐる様々な議論や運動を、「第4波フェミニズム」ないしは「インターセクショナル・フェミニズム」の新たな枠組みの中で位置付け直していく試みが求められており、その試みが徐々に明確になりつつあるといえるだろう。

注

- 1) オキュパイ運動自体は約半年間ほど継続して行われたが、大規模な占拠運動は2ヵ月ほどで沈静化し、それ以降は目立った動きがない。
- 2) 「黒人の命も大切に運動」は筆者が訳したもののだが、マイケル・ムーア監督のドキュメント映画『華氏119』(2018年11月2日に日本公開)の字幕においても「Black Lives Matter」は「黒人の命も大切に」と訳されていた。また、この運動は2018年現在も行われている。
- 3) UN Women とは、国連総会決議により作られた国連機関である。役員は、女性差別と闘うフェミニストや活動家、医者、著名人などを中心に組織されている。女性差別の撤廃や女性のエンパワメント、男女平等の達成を目的としている。
- 4) He For She <https://www.heforshe.org/en> (2018年11月3日現在)
- 5) Time's Up Now <https://www.timesupnow.com/> (2018年11月3日現在)
- 6) May 21, 2018, *Gender inequality: Stars tell world leaders poverty is sexist*. BBC News.
- 7) Women's Action Network, 2017年2月15日 「『中日新聞』(2017年2月11日)「考える広場 この国のかたち 3人の論者に聞く」における上野千鶴子氏の発言にかんする公開質問状」 Women's Action Network ポータルサイト <https://wan.or.jp/article/show/7087> (2018年11月3日現在)
- 8) 後に、上野は「あの発言は間違っていたと潔く認めたい」「わたしは性差別の解消について理想主義を失ったことがないのだから、人種差別の解消についても理想主義を失うべきではなかった」として発言を撤回している。
上野千鶴子、2018年8月16日 「北田暁大さんへの応答 ちづこのブログNo.125」 Women's Action Network ポータルサイト <https://wan.or.jp/article/show/8029> (2018年11月6日現在)
- 9) ダイバーシティバレード2018 <https://www.diversityfes.com/home> (2018年11月3日現在)
- 10) フェミニズムが生物的な「女性」だけの連帯でなくなることを危惧する人たちも存在している。トランスジェンダーの女性は女性ではなく、あくまで男性であるとし、フェミニズムがトランスジェンダー女性の参入によって男性に乗り取られると主張し、トランスフォビアやトランス排除を行う個人や集団、TERF (Trans-Exclusionary Radical Feminist、トランス

排他主義ラディカル・フェミニスト)の活動が活発になっているとの指摘もある [Golding 2014]。フェミニズムが性差別に反対するものである以上、トランスジェンダーを反性差別の連帯から排除することは、フェミニズムとして破綻しているだけでなく、性差別的ですらあるといえるだろう。

- 11) 上野千鶴子の「おひとりさま」の考え方も、作中では指摘されてはいなかったが、女性の抱える問題を老後・介護全般の問題に拡張したという点で、第4波フェミニズムの実践の一つであったと考える [上野 2007]。

参考文献

Buckley, Cara

2017, May 31, *Lebanon Bans 'Wonder Woman' Because Is Star from Israel*. The New York Times.

Daouphars, Helene

2018, Aug 15, *Mesut Ozil racism row: Germany's minorities speak out with #MeTwo*. BBC.

Farrow, Ronan

2017, Oct 27, *From Aggressive Overtures to Sexual Assault: Harvey Weinstein's Accusers Tell Their Stories*. The New.

Golding, Michelle

2014, Aug 4, *What is a woman?*, The New Yorker.

Helm, Katherine M.

2015, *Hooking Up: The Psychology of Sex and Dating*, ABC-CLIO.

Kantor, Jodi and Twohey, Megan

2017, Oct 5, *Harvey Weinstein Paid Off Sexual Harassment Accusers for Decades*. The New York Times.

James, Dave

2018, Aug 30, *US Open admits mistake to warn Cornet over shirt change in 'sexism' row*. AFP.

Mann, Arshy

2018, Apr 3, *Toronto police withdraw application to march in Pride parade 2018*. Daily Xtra, Pink triangle press.

Michelson, Noah

2015, Oct 16, *What's A Skoliosexual?*, Huffington Post. https://www.huffingtonpost.com/entry/skoliosexual-zucchini-and-10-other-sexual-identity-terms-you-probably-dont-know_us_561bf841e4b0082030a35f80 (2018年11月16日現在)

Stryker, Susan

2017, *Transgender History, second edition: The Roots of Today's Revolution (English Edition)*. Seal

Press.

Phoca, Sophia and Wright, Rebecca

1999, *Introducing Postfeminism*. Icon Books.

Women's Action Network

2017年2月15日 「『中日新聞』(2017年2月11日)「考える広場 この国のかたち 3人の論者に聞く」における上野千鶴子氏の発言にかんする公開質問状」 Women's Action Network ポータルサイト。

<https://wan.or.jp/article/show/7087> (2018年11月3日現在)

ベル・フックス

2003 (2000) 『フェミニズムはみんなのもの』堀田碧訳、新水者。

ベル・フックス

2017 (1984) 『フェミニズム理論 周辺から中心へ』野崎佐和・毛塚翠訳、あけび書房。

北原みのり責任編集

2017 『日本のフェミニズム since1886 性の戦い編』河出書房新社。

守如子

2010 『女はポルノを読む 女性の性欲とフェミニズム』青弓社。

中村久司

2017 『サフラジェット 英国女性参政権運動の肖像とシルビア・パンクハースト』大月書店。

ヴァン・ゲルダー、サラ

2012 (2011) 『99%の反乱 ウォール街占拠運動のとらえ方』山形造生他訳、バジリコ株式会社。

上野千鶴子

2007 『おひとりさまの老後』法研。

上野千鶴子

2017年2月11日 「平等に貧しくなろう」中日新聞。